



# 2023年3月期 第2四半期 連結業績概要

(2022年4月1日から2022年9月30日まで)

2022年11月8日

フジテック株式会社

(東京証券取引所プライム市場: 6406)



AirTap  
(Touchless elevator button)

## 2023年3月期第2四半期連結業績概況

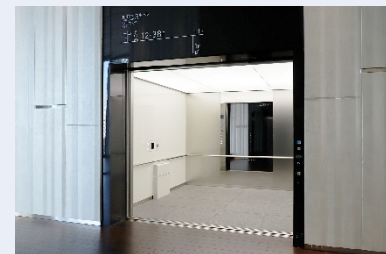
- 前年同四半期比 増収減益。売上高932億21百万円（7.6%増）、営業利益48億10百万円（42.6%減）
- 売上は、南アジア、米州・欧州で増収。営業利益は、原材料費の高騰が大きく影響
- 受注高は1,007億98百万円（4.2%増）。日本では主力標準機種需要増、アフターマーケット事業が堅調。海外で新設・モダニゼーション工事がともに好調

## トピックス

- Express Lifts（インド）をフジテック・インドを通じて買収。インド市場において、生産能力の強化と販路拡大により、事業基盤の強化を図る
- フジテック・シンガポールは創立50周年を迎え、今年9月に記念式典を開催
- 近畿エリアの業務拡大に伴い、新拠点「近畿メトロポリタンオフィス」を開設



Express Lifts本社



新しいオフィスビルには  
80人乗りシャトルエレベータを納入

## 2023年3月期第2四半期連結業績概況

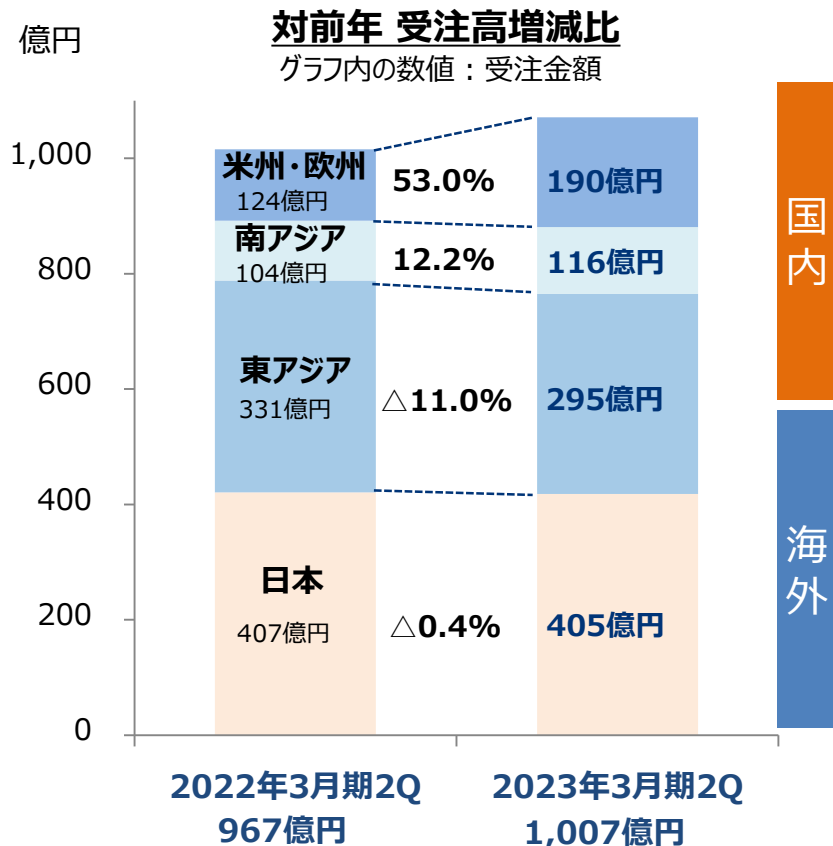
# 第2四半期 業績ハイライト

- 前年同四半期比 増収減益。中国・上海のロックダウンによる影響と急激な円安、原材料費の高騰で、収益性が低下

(金額単位：百万円未満切捨て)

	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減率(%)
売上高	86,622	93,221	7.6
国内	33,534	33,392	△0.4
海外	53,088	59,829	12.7
営業利益	8,374	4,810	△42.6
経常利益	9,407	6,503	△30.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,993	4,596	△34.3
1株当たり四半期純利益	86.14円	57.61円	—
対米ドル円為替レート	107.27円	120.91円	

- 前年同四半期比 4.2%増。国内は、主力標準機種とアフターマーケット事業が好調。海外は、新設・アフターマーケット事業ともに好調



- 新設事業**  
 主力の標準機種の受注が堅調に推移  
 前年同四半期の大型案件受注の反動により減少
- アフターマーケット事業**  
 モダニゼーション工事は新パッケージ商品が好調で増加  
 保守は、高い契約率を維持し、引き続き堅調に推移
- 新設事業**  
 東アジアは、台湾、韓国で増加、中国・香港で減少  
 南アジアは、インドで増加  
 米州・欧州は、米国、英国で増加
- アフターマーケット事業**  
 英国でモダニゼーション工事が増加

# 第2四半期 セグメント別業績

- 売上高は、南アジア、米州・欧州で30%以上の増収。日本は、中国・上海のロックダウンによる部品調達  
の停滞が影響
- 営業利益は、南アジアで増益。日本、東アジア、米州・欧州で原材料の高騰が利益に大きく影響

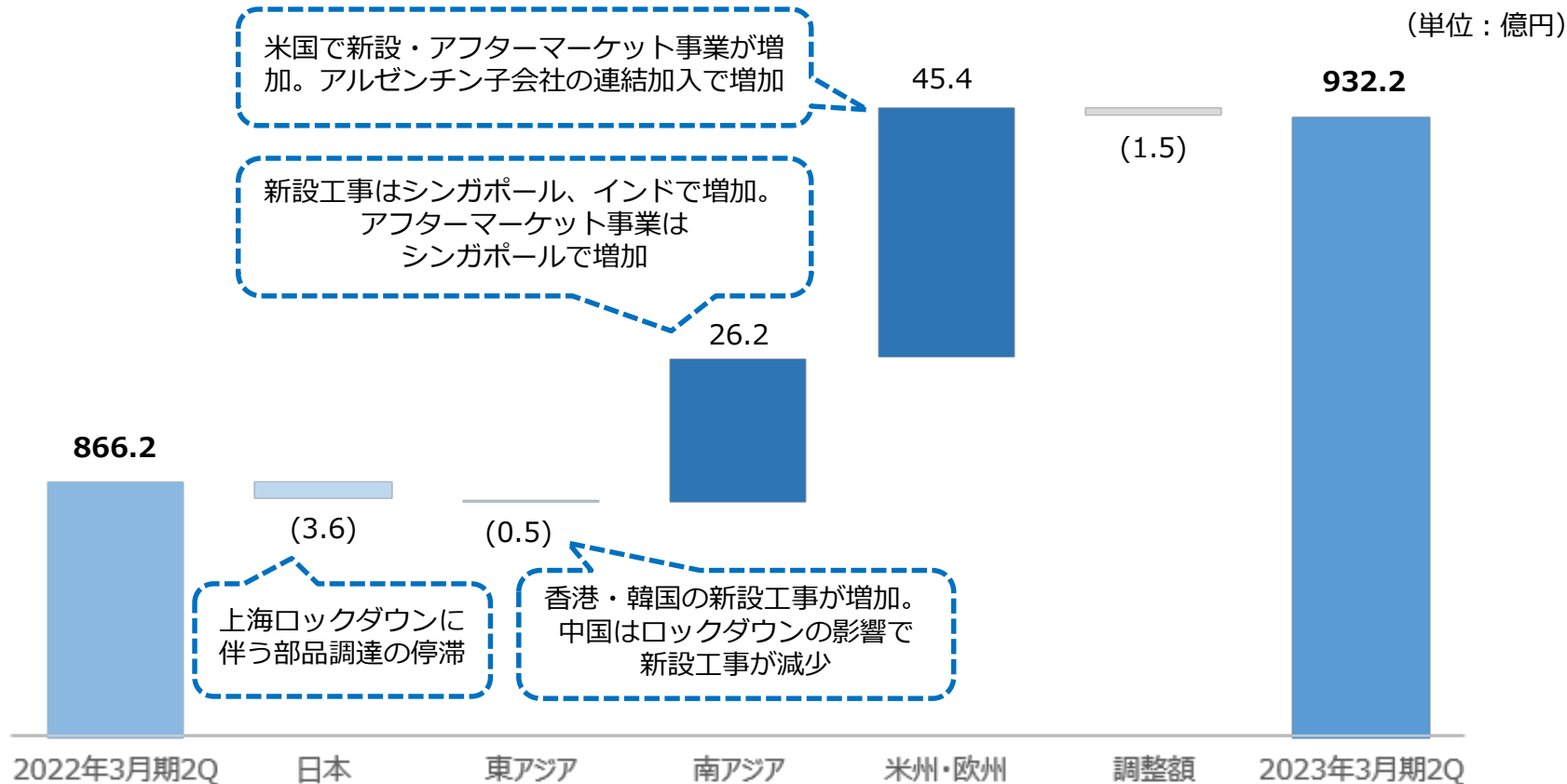
(金額単位：百万円未満切捨て)

	売上高			営業利益または営業損失		
	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減率(%)	2022年3月期 2Q	2023年3月期 2Q	増減額
日 本	34,940	<b>34,579</b>	△1.0	2,858	△ <b>136</b>	△2,994
東 ア ジ ア	36,048	<b>35,990</b>	△0.2	3,516	<b>2,019</b>	△1,497
南 ア ジ ア	7,966	<b>10,595</b>	33.0	1,372	<b>2,353</b>	980
米 州 ・ 欧 州	12,764	<b>17,309</b>	35.6	707	<b>635</b>	△71
小 計	91,720	<b>98,475</b>	7.4	8,455	<b>4,872</b>	△3,582
調 整 額	△5,097	△ <b>5,253</b>	—	△80	△ <b>61</b>	19
合 計	86,622	<b>93,221</b>	7.6	8,374	<b>4,810</b>	△3,563

2023年3月期第1四半期より、フジテックアルゼンチーナS.A.を連結の範囲に含めたことに伴い、「北米・欧州」から「米州・欧州」に名称変更

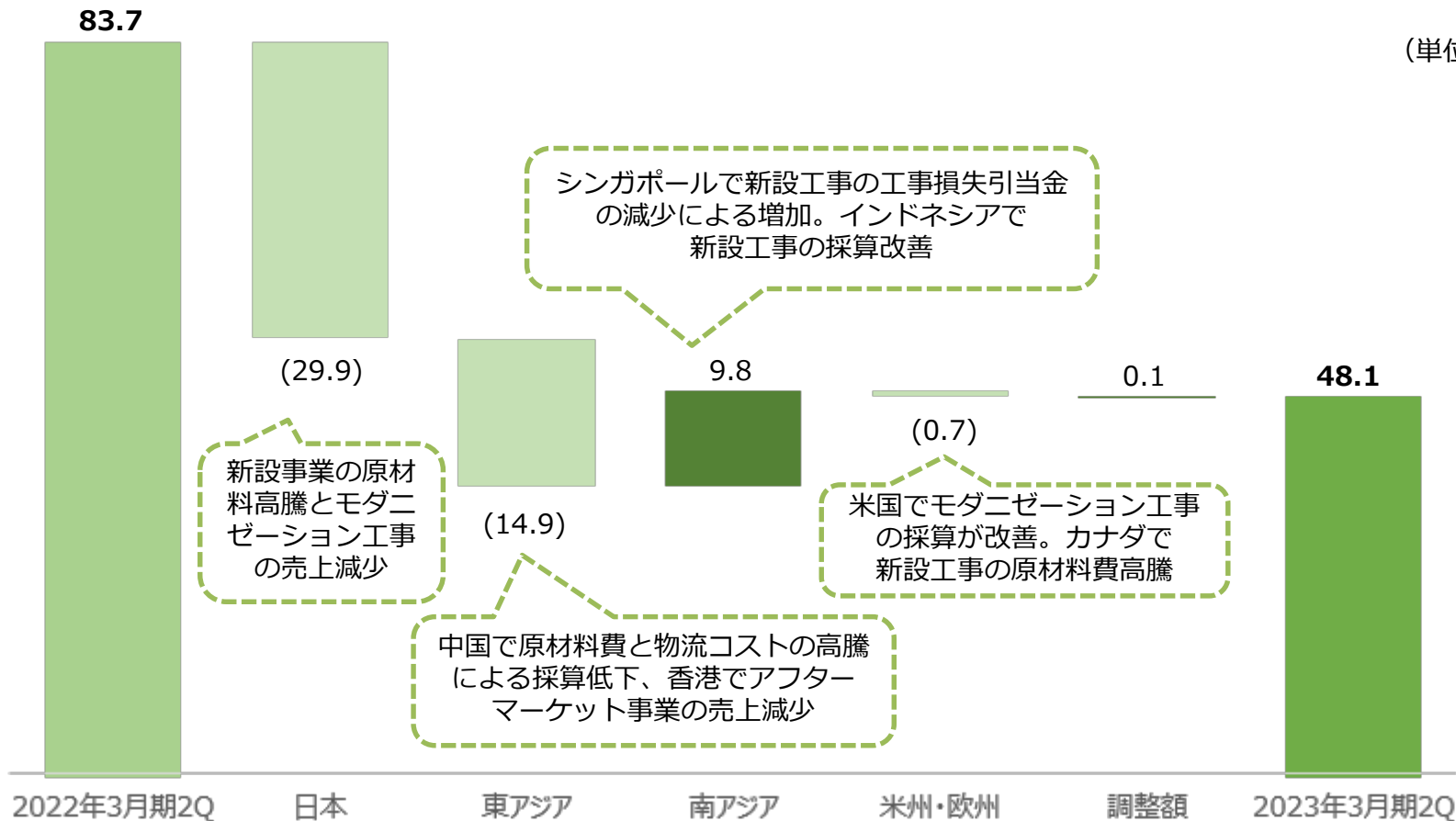
# 第2四半期 売上高ブレークダウン

- 南アジア、米州・欧州では、新設事業、アフターマーケット事業ともに堅調に推移。日本は、中国・上海のロックダウンが影響し減収



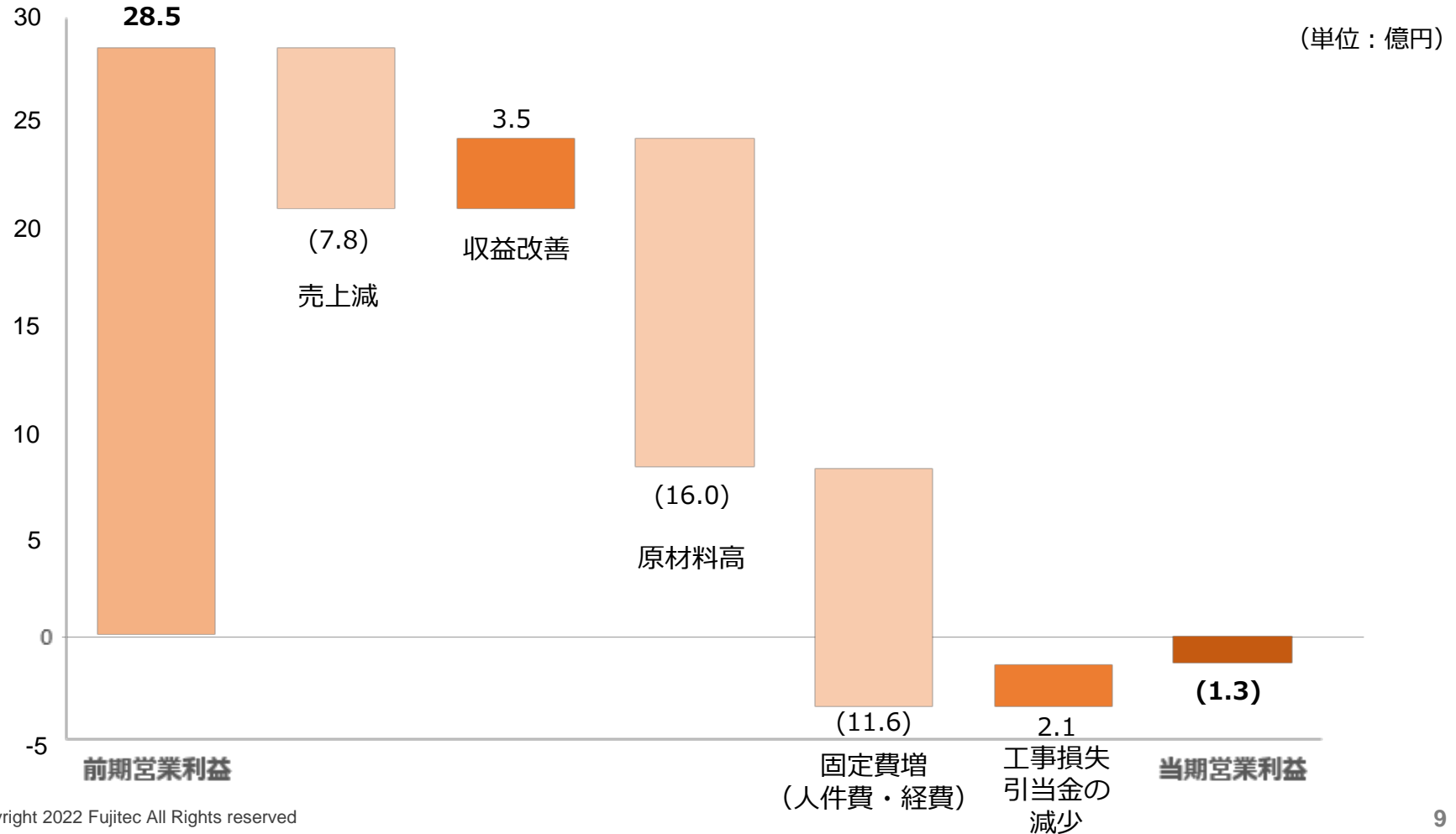
# 第2四半期 営業利益ブレークダウン

- 日本、東アジアで、原材料高騰によるコスト上昇で収益性が低下





# 第2四半期 営業利益要因分析（国内）



# 2023年3月期連結業績予想

- 売上高を上方修正。損益面は急激な円安と原材料費高騰などで収益性が低下し、下方修正
- 配当は直近に公表されている配当予想から修正なし

(金額単位：百万円未満切捨て)

	2023年3月期		増減率(%)
	当初計画	今回修正予想	
売上高	200,000	207,000	3.5
営業利益	14,700	10,500	△28.6
経常利益	15,600	12,300	△21.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,200	7,000	△31.4
1株当たり当期純利益	125.98円	88.41円	—
配当金	75.00	75.00	—

# セグメント別業績予想

- 売上高は、南アジアでシンガポールとインドの新設工事による増加と、米国で円安の影響により前回予想から売上増を見込む
- 損益面では、日本で急激な円安と原材料高騰などでコストが上昇し、減益見通し。中国で、原材料高騰により新設工事の採算低下で東アジアは減益の見込み

(金額単位：百万円未満切捨て)

	売上高			営業利益または営業損失		
	前回発表予想	今回修正予想	増減率(%)	前回発表予想	今回修正予想	増減額
日 本	78,000	<b>77,000</b>	△1.3	6,300	<b>2,200</b>	△4,100
東 ア ジ ア	85,000	<b>83,000</b>	△2.4	4,600	<b>3,700</b>	△900
南 ア ジ ア	19,000	<b>23,000</b>	21.1	2,400	<b>3,100</b>	700
米 州 ・ 欧 州	31,000	<b>37,000</b>	19.4	1,500	<b>1,600</b>	100
小 計	213,000	<b>220,000</b>	3.3	14,800	<b>10,600</b>	△4,200
調 整 額	△13,000	<b>△13,000</b>	—	△100	<b>△100</b>	—
合 計	200,000	<b>207,000</b>	3.5	14,700	<b>10,500</b>	△4,200

## 組織の新設

### フィールドエンジニアリング本部

- 今年4月、フィールド分野での据付業務効率を飛躍的に向上させ、安全にも配慮した据付プロセス改革を推進する専任組織を新設
- 据付工法開発・技量向上による据付コスト革新を進め、工事現場で新工法の運用を開始

### 人材開発本部



- 今年4月、中期経営計画「Vision24」の人材開発方針に基づき、各種施策を具体化し実行する組織として新設

- 現在、フィールドエンジニアの人材育成プログラムの強化、職種別・階層教育の改革を推進

## 成長市場における事業基盤の拡大

### Express Lifts（インド）の買収

- 今年8月、フジテック・インドを通じてExpress Lifts Limitedの発行済み全株式を取得
- Express Liftsは、インド西部のグジャラート州に工場を有し、同州でトップシェアを誇る昇降機の製造・販売・据付・保守・修理を行う企業
- 著しい成長が見込まれるインド市場において、生産能力の強化と販路拡大により、事業基盤の強化を図る



Express Lifts本社

## フジテック・シンガポール創立50周年

- フジテック・シンガポール（社長：ウィリアム・ウォン）は創立50周年を迎え、今年9月に記念式典を開催
- 「シンガポール住宅開発局」向けに累計約20,000台の納入実績、超高層ビル「ワン・ラッフルズ・プレイス」（1986年完成）に高速エレベータを納めるなど、同国の近代化に貢献し、南アジアの事業基盤を構築
- 今後も、南アジア地域の中核拠点として事業をけん引



式典ではシンガポール政府の大臣をはじめ750名が出席（上写真）

「ワン・ラッフルズ・プレイス」（右写真）



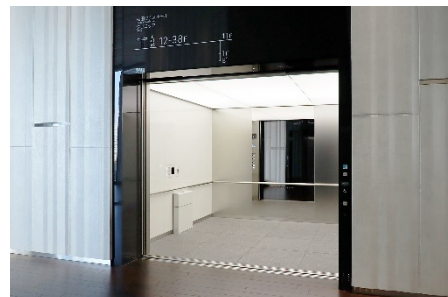
## フジテック・インド第二工場・新研究棟完成



- チennai工場で、第二工場と新研究塔が完成
- 需要が拡大するインド国内、南アジア地域向け生産基盤の整備完了

## 近畿メトロポリタンオフィス開設（日本）

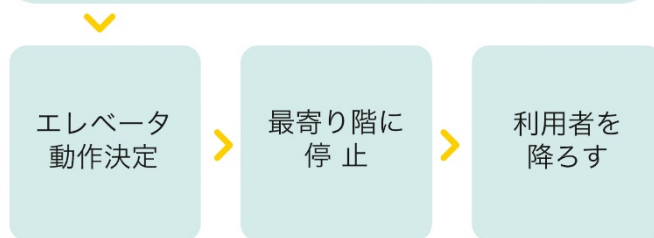
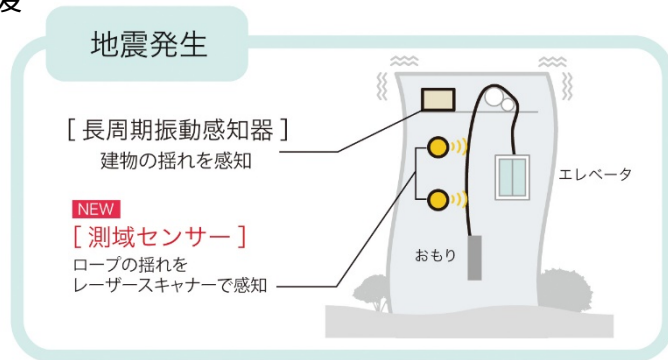
- 近畿エリアの業務拡大に伴い、新拠点「近畿メトロポリタンオフィス」を開設



新拠点が入居する大阪梅田ツインタワーズ・サウスに、80人乗りシャトルエレベータ6台を納入

## 高層向けエレベータの地震対策機能を新開発

- 高層ビルや高層マンションを対象としたエレベータの地震対策として測域センサー\*を用いた新たな長周期地震時管制運転を新開発
- 測域センサーで揺れを精緻に測定することで地震発生時におけるエレベータの休止時間を短縮し、早期復旧を支援



\*レーザー Scanner のこと。  
レーザー光で対象物との距離を測る

## TCFDに準拠した情報開示

- TCFDフレームワークに基づく気候関連財務情報を開示
- 環境や社会に配慮した美しい都市機能の実現を目指す



当社は2022年10月、TCFD提言に賛同することを表明

## 海外主力商品が環境製品宣言に登録

- グローバル事業における主力商品であるZEXIA・REXIAとELSIAが環境製品宣言(EDP)\*に登録

\*Environmental Product Declaration



# 参考情報

# 第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年3月末	2022年9月末	増減額	備考
流動資産	163,273	184,924	21,650	
現金及び預金	76,956	83,342	6,385	東アジア、南アジアでの増加
受取手形、売掛金及び契約資産	66,123	73,742	7,619	東アジア、米州・欧州での増加
棚卸資産	15,099	22,055	6,956	東アジア、米州・欧州での増加
その他	8,213	9,245	1,032	
貸倒引当金	△3,119	△3,462	△342	
固定資産	57,335	59,370	2,034	
有形固定資産	35,283	36,942	1,658	設備投資+1,735 減価償却△1,573 為替ほか+1,496
無形固定資産	4,837	5,169	332	
投資その他の資産	17,215	17,259	43	
総資産	220,609	244,295	23,685	
流動負債	74,691	87,563	12,871	前受金+6,750 支払手形及び買掛金+4,700 短期借入金+2,118
固定負債	5,435	5,178	△256	
純資産	140,482	151,553	11,071	為替換算調整勘定+11,382 非支配株主持分+2,184 利益剰余金+2,414 自己株式取得△5,061
自己資本比率	56.9%	55.0%	△1.9pt	
B P S	1,549.83円	1,696.99円	147.16円	



(単位：百万円)

	2022/3 2Q	2023/3 2Q	増減額
現金及び現金同等物 期首残高	35,840	<b>39,042</b>	3,202
営業活動キャッシュ・フロー	6,478	<b>4,037</b>	△2,440
投資活動キャッシュ・フロー	△289	<b>2,200</b>	2,490
フリーキャッシュ・フロー	6,188	<b>6,238</b>	50
財務活動キャッシュ・フロー	△3,078	<b>△7,532</b>	△4,453
現金及び現金同等物 期末残高	41,360	<b>43,671</b>	2,310

受注

## 新設工事

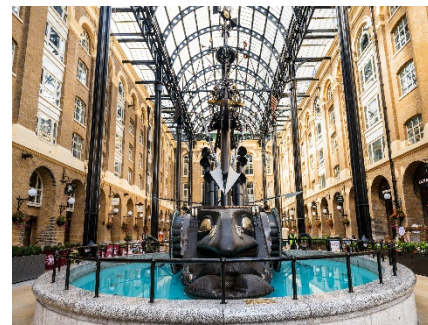


**SMART WORLD ORCHARD**  
(インド・グルガオン)  
エレベータ441台



**Gereja Kemah Tabernakel**  
(インドネシア・ジャカルタ)  
エレベータ10台・エスカレータ24台

## モダニゼーション工事



**Hay's Galleria**  
(英国・ロンドン)  
エレベータ9台

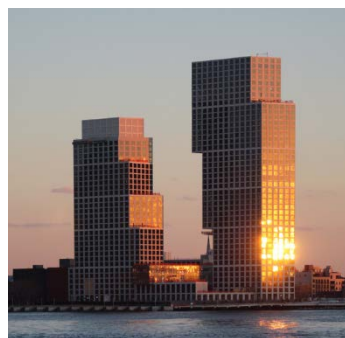


**Walton Estate**  
(香港)  
エレベータ12台

完成



**富士スピードウェイホテル**  
(日本・静岡)  
エレベータ10台・エスカレータ2台



**Eagle + West**  
(米国・ニューヨーク)  
エレベータ16台



**智汇城 (Zhi Hui Cheng)**  
(中国・海南省)  
エレベータ48台



**Nordlink**  
(アルゼンチン・ロサリオ)  
エレベータ9台

社名	フジテック株式会社
設立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場、2022年4月東証プライム市場移行)
本社	ビッグウイング 滋賀県彦根市宮田町591番地1
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資本金	125億33百万円（発行済株式数82,400,000株）
役員	代表取締役社長 岡田 隆夫 取締役：9名（うち社外6名） 監査役：4名（うち社外3名）
従業員数	連結 11,042名（単独 3,235名）
関係会社	37社（内、連結子会社22社） （米州、東アジア、南アジア、欧州・中近東）

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。

既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2022年11月8日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2022年11月8日

# フジテック株式会社

2023年3月期第2四半期 連結業績概要

